

## 第 11 章 図書・電子媒体等

### 【到達目標】

本学では、図書資料を含めた多種多様なメディアの収集・提供、学術情報提供のための環境整備、教学と連携した教育支援体制を強化することにより、学生及び教職員へのサービス向上を図ることを目指し、以下を到達目標とする。

- ①図書、電子ジャーナル等の資料のさらなる整備を図り、利用者へのガイダンスを含めた広報活動を展開し、有効活用を促進する。
- ②図書エリアの施設・設備面での点検を行い、利用者サービスの改善を図る。特に東京神田キャンパスの狭隘な閲覧スペースの有効活用を目指し、目的別のスペース確保を行う。
- ③情報発信としての総合メディアセンターホームページの充実、学内外とのネットワークの強化を図り、学習・研究支援のサポートを行い、サービスの向上・改善を目指す。
- ④総合メディアセンターを情報基盤の中核として位置づけ、情報の発信源として各地域との連携を強化し、学内はもとより卒業生を含めた一般の利用者が学習できる環境を整備し、地域開放を行う。

### (11-1) 図書、図書館の整備（大学基礎データ表 41、表 42、表 43 参照）

#### 【現状説明】

図書の蔵書数は、大学基礎データ表 41 のとおり、大学全体で約 32 万冊、雑誌は約 3,100 種類となっている。図書蔵書の内訳は、専門図書が約 57%、教養図書が約 43%である。

また、DVD 等の視聴覚資料は、3 キャンパスで約 3,900 タイトルを保有している。埼玉鳩山・千葉ニュータウンキャンパスでは、これらの資料を視聴するための AV 機器を設置したコーナーを設けているが、東京神田キャンパスでは閲覧スペースに余裕がないため、ポータブル機器及びヘッドホンの貸出を行い、机上で閲覧可能なように配慮している。また、グループでの視聴にも対応できるように、ブラウジングエリアに AV 機器を設置し、赤外線ヘッドホンの貸出を行っている。

施設面では、大学基礎データ表 43 のとおり、埼玉鳩山・千葉ニュータウンキャンパスの閲覧席及びスペースは比較的余裕を持った構成になっている。また、東京神田キャンパスは 2008 年度（平成 20 年度）および 2009 年度（平成 21 年度）に閲覧室の新設および改修を行い、閲覧座席数の増設を図ることができたため収容定員の 10%以上を確保できた。

開館時間は、大学基礎データ表 42 のとおり、授業終了後も学習可能なように時間延長を実施している。さらに、夜間部を擁する東京神田キャンパスにおいては、より遅い 21 時 45 分までの時間延長を行っている。

#### 【点検・評価】

図書・雑誌の蔵書は、専門図書を中心として配置している。しかし、近年は、情報分野の図書の新陳代謝が激しく、所謂マニュアル的な消耗品図書が増加している。書庫スペースにも限界があるため、それらについては、新版との入替が可能なように配慮し、書架を圧迫し

ないように調整を行っている。また、利用者からのリクエスト図書も積極的に購入している。

雑誌は、積極的に電子化への対応を推進し、紙媒体の資料から電子ジャーナルへの切替を行っている。その影響で製本する雑誌も以前と比較すると大幅に減少している。

閲覧座席は、以前は机上に図書・ノート等が広げられるスペースがあればよかったが、最近ノートパソコンも持ち込まれるケースが多いため、一席当たりのスペースを広くすることが望まれている。比較的余裕がある埼玉鳩山・千葉ニュータウンキャンパスでも OA 対応机等の設置を検討する必要がある。

開館時間等については、特に試験時期に現状の時間よりさらなる延長及び休日開館に対する要望が挙げられていた。そのため、試行的ではあるが、2010年（平成22年）1月の試験期に東京神田キャンパスにおいて休日開館を実施した。当日は、約50名の学生の利用があり、アンケートを実施したところ「勉強の場としての利用」を全員が回答した。

#### 【改善方策】

東京神田キャンパスでは、閲覧スペースの有効活用を図るために、参考図書および資格支援に関する図書を設置した閲覧室において、レファレンスが行えるようパソコン等の機器を設置し、相談スペースの環境整備を図る。（到達目標②）

埼玉鳩山キャンパスでは、グループ学習コーナーを設置し、課題作成等の支援を行う。

千葉ニュータウンキャンパスでは、入館者数及び貸出冊数の増加を目指し、資源の有効活用を図るため、新着図書や企画展示ができるコーナーを設置する。

これらを支援する体制及び利用者サービスの向上のため、運用体制のアウトソーシング化を行っている。今後、さらなる活用を図るため、ライブラリーアドバイザーを投入し、閲覧カウンター外での利用者への声掛け等のサービスを積極的に展開する。（到達目標①）

## (11-2) 情報インフラ

### 【現状説明】

雑誌の急速な電子化に対応し、IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) 関連の電子ジャーナルの導入をいち早く行った。その後、利用頻度の多い雑誌のパッケージから順次電子ジャーナルへの切り替えを行い、現在は24種類約2万タイトルが利用可能となっている。また、文献検索ツールとして各種データベースも契約を行っている。電子ジャーナルに引き続き、電子ブックの導入にも積極的に取り組み、東京電機大学出版局が出版した図書を含む和書や、工学、数学、情報分野の洋書のパッケージも購入し、利用提供を行った。これらは、総合メディアセンター図書ホームページから本学の全ての学生・教職員が利用できる環境となっている。

図書資料のデータは、過去分も含め、全てデータベース化し、管理を行っている。また、国立情報学研究所提供の相互協力システムを利用し文献複写サービスに加え、2010年（平成22年）1月より図書の貸借サービスにも参加し、他機関との連携を図っている。

3キャンパスとも図書閲覧室内で無線LAN若しくは情報コンセントが使える環境を整備し、個人のパソコンでも電子化された資料の利用や情報検索を可能としている。

### 【点検・評価】

電子ジャーナルを導入したタイトルについては、順次紙媒体の冊子体を廃止し、予算面での二重投資を行わないように配慮している。

近年、利用者からは、バックファイルへのアクセスの要望が多くなってきている。また、電子ジャーナルのアクセス方法や閲覧可能な期間が不明である、等の質問が多く寄せられ、利用促進の広報活動が不足していることは否めない。導入した電子ジャーナルへのアクセス方法及び検索が体系的に整備されていないため、利用者が戸惑うことが多いのが現状である。

また、パソコンを利用しながら学習する利用者が増加しているため、情報コンセント付きの閲覧室や無線 LAN の利用率はかなり高くなっている。

外部利用者に対して積極的に開放は行っていないが、目録データベース等を検索し、他機関での所蔵が無いあるいは少ない資料については、閲覧及び複写のサービスを提供している。

### 【改善方策】

図書費とのバランスを考慮しながらバックファイルも購入し、電子ジャーナルの充実を図る。また、それらの資源の有効活用を図るため、リンクリゾルバ等のツールの整備およびその利用方法の周知について検討を行い、利用者サービスの向上を実現する。(到達目標①)

電子化された資源の有効活用を目指し、文献検索方法等のガイダンスを継続的に実施する。これは、遠隔講義システムを利用し、3 キャンパス同時開講で行い、大学全体の利用者のスキルアップを目指す。(到達目標③)

さらに、ホームページの充実を図り、広報活動を積極的に行う。(到達目標④)

